



今号の題字はスーダンの
筆で書きました
▶詳しくは[こちら](#)

01

ピックアップ

P1...ポータブルX線装置のガイドラインを作成

02

スーダンだより

P2,3...軍事衝突から2年半
/支援地域の人々の暮らしはいま

03

ザンビアだより

P4.....「結核専用の診療所」が完成
P5.....「結核ボランティア」の活動と課題
P6.....エコ健診の地道な仕組みづくり

04

読み物

P7.....ザンビアの健康に関する習わし
P8,9...曇外蒼天：スーダンの薬用植物の可能性
P10...日々ツラツラ日記：大阪万博・スーダン

05

イベント、国内活動

P11,12...遺贈イベント報告
P13,14...アフリカ開発会議（TICAD9）関連イベント
/教育プログラムが北九州市で採択

06

事務局からのお知らせ

P15.....領収書の年一回発送について
P16.....ザンビアオンラインツアー/古本寄付
P17.....事務局だより

第34号

目次

令和七年十一月十日
認定NPO法人
ロシナンテス発行

01 ピックアップ



アフリカ初！ポータブルX線装置のガイドラインを作成

ロシナンテスは、2023年からザンビアで、富士フイルム株式会社のポータブルX線装置を活用した巡回検診に取り組んでいます。村落部の診療所に装置を持ち込み撮影できるため、これまで検査を受けられなかった人々にも結核診断の機会を提供しています。



<ポータブルの利点を活かさない制度の壁>

この装置はレントゲン室を必要とせず、3m以上離れば放射線の影響もほとんどありません。しかし、新しい医療機器であるため準拠すべきガイドラインがありませんでした。従来の規制（5m×5mの部屋、鉛扉など）では利便性が発揮できず、正式な許可取得にも時間を要していました。そこでロシナンテスは2024年12月、ザンビア保健省に独自のガイドライン策定を提案しました。

<数日かけて策定会議を開催>

2025年4月、中央州カブウェで関係者を集めた策定会議が開かれました。各機関が課題の共有と必要性を確認し、会期中に無事ドラフトが完成しました。

公布式の様子

ガイドラインでは、専用検査室がなくても、屋内外を問わず安全が確保されれば使用を認める方針が示されています。ロシナンテスを通じて保健省に提出され、大臣と次官の署名・承認を経て、2025年7月22日に正式に公布されました。今後はこの指針をもとに、より多くの病院や診療所で巡回検診を行える体制づくりを進めていきます。



02 スーダンだより



スーダン軍事衝突から2年半

スーダンでは、2023年4月、首都ハルツームで国軍と準軍事組織RSF（Rapid Support Forces）による衝突が起こり、それ以降2年半にわたり今も内戦が続いています。2024年、国外へ逃れた難民や庇護希望者は約400万人、国内避難民は世界最大を記録し約1,200万人に達しています。

<深刻な人道危機>

長引く内戦の影響で、スーダンの人道状況は深刻さを増しています。医療や水・衛生の分野は特に壊滅的です。世界保健機関によれば、人口の40%以上にあたる2,030万人が緊急の医療支援を必要としています。しかし、データのある7つの州においては、病院の38%が機能不全に陥り、62%が部分的にしか機能していません。必要な治療が十分に行えず、医薬品も不足する状況が続いています。衛生環境の悪化により、コレラ、はしか、マラリアなどの感染症が急速に拡大しています。

<スーダン渡航、再び>

2025年9月に、理事長の川原が再びスーダンの港湾都市ポートスーダンに渡航しました。5月初旬、RSFによるポートスーダンへのドローン攻撃が報じられ、安全面が懸念されていましたが、9月現在ポートスーダンの治安は比較的落ち着いており、市場は以前のような活気を取り戻してきています。人々の生活状況としては、時折停電などがあるものの、水道やインターネットはある程度機能しており、一定の生活基盤は保たれています。

現地での課題は山積しています。救急車の数が足りず「中古でもいいから欲しい」とスーダン保健省から強い要請がありました。これを受けてロシナンテスは、日本から中古の救急車4台を送る準備を進めています。

02 スーダンだより



支援地域の人々の暮らしはいま

ロシナンテスの事業地である地方部には、内戦の影響で都市から多くの避難民が流入していました。しかし今年に入り、国軍が首都ハルツームなど主要都市を奪還したことから、一部の人々が故郷へ戻り始めています。

■ガダーレフ州シェリフ・ハサバツラ村

治安が大きく改善し、物価は高騰しているものの、食料や生活必需品も入手できるようになったそうです。しかし依然深刻なのは医療へのアクセスで、薬や医療資材が不足しています。

■ハルツーム州ウッド・シュウェイン村

ここは2022年にハフィール（ため池）を改修した地域です。RSFの襲撃があり、ソーラーパネルが略奪されましたが、現在は落ち着いているそうです。発電できないため、タンクに水を汲み上げる給水機能がありませんが、ハフィールから直接水を汲む従来の方法で水を得て生活できているとのこと。



ハフィール
(2023年撮影)

■北コルドファン州オンムサマーマ村

2022年に建設した3校の学校は、州都オベイドで学校が攻撃を受け生徒に犠牲者が出たことをきっかけに閉鎖されていました。しかし今年9月上旬、再び子どもたちを迎え入れ、学校が再開したとの報告がありました。



オンムサマーマ村の学校
(2022年撮影)

皆さまのご支援で整備した設備が、地域の暮らしを支えています。内戦下にあっても子どもたちが学校に通い、地域に水が行き渡ることは、人々にとって大きな希望となっています。

03 ザンビアだより



安心して治療を受けられる 「結核専用の診療所」が完成

中央州チボンボ郡のムワチソポラ病院に結核専用の診療所を建設し、9月に完成しました。

ムワチソポラ病院はロシナンテスが結核事業を実施している病院の一つです。これまでは結核専用の診療所がなく、他の患者や妊婦さんと同じ待合室であるために、院内感染のリスクが高まっていました。また結核感染を周囲に知られてしまうことで、患者さんが差別や偏見を受ける恐れも懸念されていました。



完成した結核診療所

この解決策について、施設や地域の保健局と議論を進めた結果、ロシナンテスが、結核専用の診療所建設を支援することを決定しました。郡保健局と連携し、結核診療に特化した医療従事者を2名以上配置してもらう準備も進めました。この診療所により、他の患者との接触機会を減らすことができ、結核患者さんが安心して治療を受けられるようになります。また専門スタッフが常駐しているため、早期の診断と治療が実現します。



開所式では、演劇で結核について発信

9月18日に結核診療所の開所式が行われました。今後、ムワチソポラ地域の結核対策は大きく前進することが期待されます。そして、この取り組みがザンビア全体の結核対策のモデルケースとなり、広がることも期待しています。

03 ザンビアだより



地域に根ざす 「結核ボランティア」の活動と課題

ザンビアでは、「結核ボランティア」が医療従事者とは別に配置されており、非常に重要な役割を担っています。ロシナンテスの事業地では郡病院に8名ほど、診療所には5～7名が活動しています。

■ボランティアの主な活動■

- ・ 病院や診療所、地域での結核スクリーニングの手伝い
- ・ 喀痰採取と検査室への提出
- ・ 患者情報の台帳記入
- ・ 医療施設や地域での結核啓発活動
- ・ 患者の治療フォローアップ
- ・ 濃厚接触者の追跡と喀痰採取
- ・ 患者のX線検査へのエスコート

ポータブルX線装置の導入に伴い、2025年6月から7月に結核ボランティア研修を実施しました。目的は、結核や治療法の正しい知識、伝え方の習得、そして啓発活動の実践学習です。濃厚接触者追跡の家庭訪問時の対応をロールプレイ形式で学びました。



研修修了のベストを着用したボランティアの皆さん

研修では2026年3月までの活動計画を策定し、2カ月ごとに進捗会議を行うこととしました。結核ボランティアは無償で活動しています。今後は、ボランティアに過剰な負担をかけず、地域の保健指標を向上させる体制を、保健省、保健局、病院や診療所、地域の酋長と共に計画し構築していく必要があります。ロシナンテスはこれからも結核ボランティアと共に地域医療・保健の向上に努めてまいります。

03 ザンビアだより



妊婦さんに安心・安全を エコー健診の地道な仕組みづくり



小平雄一先生による研修

2021年以來、ロシナンテスはザンビア中央州チサンバ郡の9つの医療施設に、超音波検査（エコー）機器を導入してきました。これまでは、村落部では妊婦さんがエコー検査を受けられず、何十キロも離れた大きな病院まで出向く必要がありました。そのため、一度もエコーを受けないまま出産に臨む方が大半でした。

このエコー健診活動の鍵となるのが、医療施設スタッフの育成です。導入当初、各施設で研修を受けたのはわずか2〜3人でした。交代勤務のため、妊婦健診の日にエコー検査を担当できるスタッフを確実に配置できない状況が続いていたのです。そこで、産婦人科医・小平雄一先生のご協力のもと、より多くのスタッフがエコー技術を習得できるよう研修を重ね、これまでに12回の研修を実施しました。現場を長く離れられないため、研修期間はわずか4日間。その間、参加者は懸命に学び、スタッフ一人ひとりの真剣な取り組みと努力によって、最終日には全員がテストに合格しました。

2025年8月、ついに9つすべての施設で、妊婦さんが必ずエコー検査を受けられる体制が整いました。数年前に研修を受けた人の中には、他のスタッフに指導できるまでに成長した人もいます。こうした人材の存在で、現地スタッフだけで研修ができるようになりました。今後は、まだ研修を受けていないスタッフへの教育や、経験者へのアドバンス研修の実施を進めていきます。



研修後、医療施設で
健診をするスタッフ

04 読み物



日本には絶対ない!? ザンビアの健康に関する習わし

多様な部族が暮らすザンビアには色々な習慣があります。今回、現地スタッフに「幸運や健康に関する習わし」の話を聞きました！



フィールド・
コーディネーター
ニユマ



赤ちゃんに関する習わし

ザンビアの東部では、赤ちゃんの最初のお風呂にはハーブを入れるという習わしがあります。ハーブが赤ちゃんを守ってくれと信じられているからです。また生後6週間くらいの時期に、赤ちゃんの両手首と腰に黒い綿を巻きます。これも赤ちゃんを病気から守ってくれと信じられています。

また、ザンビアでは多くの人々が魔術を信じています。魔術の材料の1つが赤ちゃんのへその緒なのです。そのためか、赤ちゃんのへその緒は、誰にも見つからないように地面を掘り埋めるといった習慣があります。

ドライバー
ムウカ



ベンバ族の健康の習わし

病気から身を守るため、カミソリの刃を使って伝統的なタトゥーのようなものをするという信仰があります。首や額などに小さな切り傷をつけ、木を灰にした粉を切り傷に塗ります。病気予防になり、幸運をもたらすと信じられています。

このほか病気の予防や健康維持になると信じられているのが、ハーブを蒸すというものです。ハーブを用意し、煮て、蒸します。毛布のようなもので覆い、かき混ぜ、植物から出る蒸気を吸い込むという習慣です。子どもから大人まで行っています。

04 雲外蒼天（1）



未来の医療はアフリカから スーダンで見つかった薬用植物の可能性

アフリカでは昔から、人々は薬草を用い、感染症や体の不調に立ち向かってきました。ロシナンテスの活動するスーダンやザンビアでも、ハーブなどの植物を用いた伝統医療を行う慣習が、今も身近にあります。近年、こうした伝統医療で使われている薬用植物を科学的に検証し、新しい薬の源としようとする研究が世界で加速しています。

ニチニチソウ



<アフリカの薬用植物の活用>

アフリカの薬用植物が薬に活用された代表例の一つが、マダガスカル原産の「ニチニチソウ（*Catharanthus roseus*）」です。暑さと乾燥に強く、この植物から発見された成分は、現在も白血病やリンパ腫などの抗がん剤（ビンクリスチン、ビンブラスチン）として世界中で使われています。小さな花が、がん治療に欠かせない薬を生み出したことは、アフリカの自然が持つ可能性を象徴する出来事といえるでしょう。



ケープアロエ

また、南アフリカ原産の「ケープアロエ（*Aloe ferox*）」は、便秘薬や皮膚ケア製品として広く利用されており、国際的なハーブ市場でも重要な存在です。近年では、免疫や抗炎症作用の研究も進められており、その成分や安全性についての包括的なレビューも発表されています。これらの事例は、アフリカの薬用植物がすでに世界の医療に貢献していることを示しています。

04 雲外蒼天（2）

＜日本との関わり＞

日本の大学や研究機関も、アフリカの薬用植物研究に深く関わっています。京都大学、長崎大学、富山大学などでは、アフリカやアジアの薬用植物研究が長年進められてきました。近年ではJICAも、アフリカ各国の研究機関と連携し、研究を支援しています。

またスーダンでも、ロシナンテスの仲介で、2016年から熊本大学薬学部とハルツーム大学薬学部が学術提携を締結し、共同研究が行われています。砂漠地域の薬用植物から新しい薬を開発できないかという研究です。残念ながら内戦でこの研究は中断を余儀なくされましたが、その後、研究チームは拠点を隣国エジプトに移し、エジプトの研究者と共同で調査を継続する体制を構築しています。現在は熊本大学、九州大学、長崎大学の合同チームで、九大カイロオフィスを拠点に研究を進めています。

＜スーダンからの新たな発見＞

今年8月、スーダンから国際的に注目される研究成果が発表されました。スーダンのハルツーム大学と熊本大学の研究チームは、スーダンの伝統薬草「グニディア・クラウシアナ」から、HIV治療に役立つ可能性のある成分を発見しました。

現在のHIV治療は、薬を飲み続けてウイルスの増殖を抑える方法しかなく、体の中に眠ったまま隠れているウイルスには薬が効きません。今回見つかった成分「グニディラチジン」は、この隠れたウイルスを呼び覚まし、薬や免疫の力で退治できるようにする働きがあります。さらに新しい感染を防ぐ力もあり、HIV根絶への道を開く可能性が期待されています。

国際的に注目される研究成果が発表されたことは、スーダンから世界に向けて発信された「希望の光」かもしれません。もしこの研究がさらに進み、実用化される日が来れば、単なる医療の進歩にとどまらず、スーダンにもさまざまな恩恵をもたらす可能性を秘めています。引き続きスーダンに関心をお寄せいただけると幸いです。

04 日々ツラツラ日記

大阪万博・スーダンナショナルデー

2025年10月まで大阪・関西万博が開催されました。会期中は、各国が日替わりで自国の文化や魅力を紹介し、公式行事やパフォーマンスを通じて国際交流を深める「ナショナルデー」が設けられていました。

9月2日にはスーダンのナショナルデーが行われ、理事長の川原をはじめロシナンテスのスタッフが参加しました。迎賓館での式典に始まり、大屋根リングの下を1時間かけて行進するパレード、さらにナショナルデーホールでの公開式典と、盛りだくさんの催しが続きました。

公開式典でスーダン国歌が斉唱された際には、現地での日々の記憶が次々とよみがえり、胸が熱くなりました。この場に立ち会えたのは、2023年4月の内戦による退避の際に、ご協力くださった多くの皆様のおかげです。ご尽力とご心配をいただいたすべての方に、心より感謝申し上げます。

日本では、スーダンの人々の優しさや朗らかさに触れる機会は、残念ながら限られています。今回のナショナルデーでは、多くの方々がスーダンの人々とともに笑顔を分かち合う姿を見ることができ、感無量でした。日本におけるスーダンの貴重な晴れ舞台に参加できたことを、大変嬉しく思います。



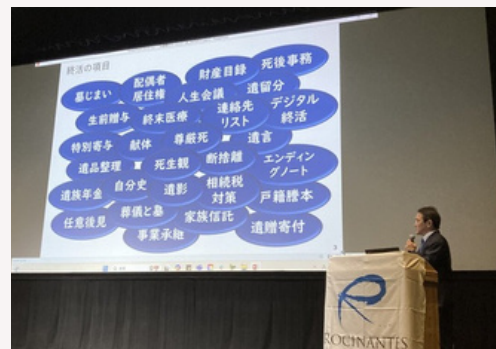
(スーダン事業部 岩吹 綾子)

05 イベント、国内活動

遺贈イベントレポート

2025年5月15日北九州市で

「最初の一步を踏み出す『エンディングノート』の書き方・活かし方」～自分らしい相続・遺贈講座～を開催しました！



<完成を目指さない！エンディングノート活用法>

本講座はエンディングノートの作成を通して、今後のよりよい人生について考えることを目的に企画したものです。講師は、遺贈寄附推進機構株式会社 代表取締役の齋藤弘道さん。相続・遺言・遺贈寄付のスペシャリストです。「エンディングノートは、“死”の準備ではなく、“生”を振り返るツールだ」と話す齋藤さん。その意義や活かし方について解説いただきました。

<大切なのは“想い”の整理>

エンディングノートとは、必要な情報を残すためのノートです。

「金融機関の口座や生命保険の手続き先」「財産状況」

「各種IDやパスワード」情報をまとめるだけではありません。

「葬儀やお墓に関する希望」

「家族、友人へ伝えたいこと」

「医療・介護に関する希望」

「財産の使い道」

といった“想い”を、自分の言葉でまとめるのが特徴だと言います。



<とにかく1歩を踏み出すことが大切>

エンディングノートは、山のようにやるべきことがある「終活」の中でも人気があり、認知度も高いのですが、書き残している人はわずか10%前後に留まっているそうです。「とにかく1歩を踏み出すことが大切！」と教えていただきました。

05 イベント、国内活動

<便利な「終活ファイル」はぜひ作って>

齋藤さんのおすすめは「終活ファイル」を作ること。財産情報や口座情報などを、書き出すのではなく、コピーしてファイリングしていくというもので、エンディングノートと並行して作成するのが良いそうです。



- ・キャッシュカード・クレジットカード
- ・保険・年金
- ・不動産関係の書類

これ作ると、情報が一覧でき、書類を探さずに済むのでとても便利だそうです。

<「お金の最後の使い道」に想いを込めて>

後半は、遺贈についてのお話しでした。「遺贈」とは、遺言によって遺産の一部または全てを無償で譲ることを指します。高齢化やおひとりさま世帯の増加により、相続人のいない財産が年々増加しています。「社会に役立てたい」と考える方の想いをかたちにする一つの手段として、近年少しずつ関心が高まっています。齋藤さんは「遺贈は“お金を通じた自己表現」と話します。多様な寄付の選び方についても、ステップに分け丁寧に説明してくださいました。

「いきなり遺言ではなく、まずは小さな寄付から始めてみて、“団体との相性”を確かめるのがコツ」とのことでした。終盤には北九州市の認定NPOである3団体（フードバンク北九州ライフアゲイン／抱樸（ほうぼく）／ロシナンテス）が登壇し、それぞれの活動内容を説明。最後にはあたたかい拍手に包まれながら講座は終了しました。

「遺贈・相続寄付ガイドブック」

👉資料請求は[こちらから](#)

※問い合わせ内容欄に「遺贈寄付の資料を希望」とご記入の上、送信ください。

「ロシナンテスそよ風倶楽部」募集

学びながら「自分らしい相続・遺贈」について考える場です。

数か月に1回メールで「ロシナンテスそよ風通信」をお届けします。

👉詳しくは[こちらから](#)

05 イベント、国内活動



アフリカ開発会議（TICAD9） 関連イベントに登壇

2025年8月、神奈川県横浜市でアフリカ開発会議（TICAD）が開催されました。TICADは日本政府が国連や国際機関と共催するアフリカ開発に関する国際会議です。このTICAD開催に関連して、ロシナンテスは2つのイベントに登壇しました。

① ポータブル・ヘルス・クリニックによる アフリカでの母子保健管理の飛躍 ーAIとデジタルクローンの活用ー



ポータブル・ヘルス・クリニック(PHC)とは、医療サービスへのアクセスが困難な地域において、情報通信技術とオンライン診療を活用し、適切な医療提供を可能にする携帯型の診療システムです。看護師が携帯型の医療機器で巡回健診や検査を行い、データを重症度に応じて分類します。緊急性の高いケースには遠隔の医師と連携して対応する仕組みです。

本シンポジウムでは、九州大学、長崎大学、大阪大学、グラミンコミュニケーションズとともに、各地で取り組むPHCの事例を発表しました。理事長の川原が登壇し、ザンビアで導入を進めている小型エコーの事例や他組織との連携について紹介しました。

最後には九州大学の石橋達朗総長と駐日スーダン大使による署名が行われました。ロシナンテスは、「現地の人々にどのような恩恵を直接届けられるか」を第一に考え、現地のニーズと結びつけるべく、大学や研究機関と現場をつなぐ役割を担っています。内戦が続き、多くの医療従事者が国外避難を余儀なくされるスーダンにおいて、PHCをはじめとする技術が人々の健康と未来を支える日が来ることを強く願っています。

05 イベント、国内活動

② 富士フィルム主催 TICAD結核カンファレンス

TICAD9開催にあわせて、結核カンファレンスが横浜で開催され、理事長の川原が登壇しました。このイベントは、富士フィルム株式会社とWHO傘下のストップ結核パートナーシップが共催し、ロシナンテスをはじめ、ケニアやカメルーンの政府関係者らが登壇しました。各国からは、ポータブルX線装置を活用した取り組みや成果が紹介されました。



ロシナンテスからは、結核事業の紹介と、アフリカで初めてポータブルX線装置の国家運用ガイドラインを策定したことを発表しました。各国政府関係者から大きな関心が寄せられ、多くの国で新技術導入に法整備が追いついていないことを実感しました。また、富士フィルムからはAIによる支援機能を備えた新機種が紹介されました。

ロシナンテスは今後も富士フィルムと協力して、ザンビアにおけるポータブルX線装置を活用した巡回検診体制の拡大に取り組んでいきます。

ふるさと納税×国際理解 市民向け教育プログラムが採択

ロシナンテスによる「市民のための国際教育プログラム」が、2025年度の北九州市「ふるさと納税を活用した協働のまちづくり推進事業」に採択されました。国際的な課題を理解し行動する力を身につけることを目指して、ロシナンテスが北九州市内で市民講座や出前授業を実施するものです。2026年4月から1年間、北九州市の企業版ふるさと納税の補助金で実施します。



06 事務局からのお知らせ



領収書の年一回発送について



以下の対象者の方には、一年分のご寄付をまとめて記載した領収書を翌年1月に発送しております。2025年分は、2026年1月末までに発送予定です。予定日を過ぎても届かない場合は、ご連絡ください。

【対象者】

毎月ご支援をいただいている方(クレジットカード・口座振替)、
年一回発送をご希望の方

※上記対象の方でも、領収書が不要な旨をご連絡いただいている方には発送いたしません。

※年一回発送対象以外のご寄付につきましては、ロシナンテスが受領した日の翌月までに領収書を発送しております。届いていない場合やその他(紛失や破損など)についてはロシナンテスまでご相談ください。

<領収書が不要な方はご連絡ください>

寄付金控除の申告を行わない方など、領収書が不要の方は、以下のフォームにてお知らせください。なお、現時点では電子データの領収書発行には対応しておらず、メールでの領収書送付も承っておりません。

【郵便物の停止フォーム】

<https://www.rocinantes.org/mail/withdrawal/>

「停止したい郵便物」欄で、「領収書」をご選択ください。

※フォームにご入力いただいた方には、年一回の領収書を含め、以降にいただくご寄付についても、領収書の発行を停止させていただきます。

※ご入用の場合はいつでも領収書を発行することは可能です。ご希望の場合は、事務局までご連絡ください。

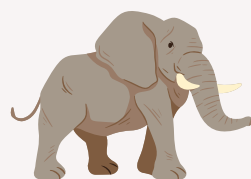
06 事務局からのお知らせ

<ご住所の変更はございませんか?>

下記のいずれかの方法でお知らせください。

- 1) ウェブサイト <https://www.rocinantes.org/support/change/>
- 2) メール info@rocinantes.org
- 3) お電話 093-521-6470 (平日10:00~17:00)

▶▶ ザンビアを知ろう！ YouTubeでオンラインツアー



① ザンビアの魅力を旅行気分で味わうオンラインツアー

世界3大瀑布の1つ「ビクトリアフォールズ」をはじめ、サファリ、マーケットなどをご紹介します。

👉 詳しくはこちら https://youtu.be/3XUe_CwGolU

② ザンビアの結核事業の現場を訪問！

ポータブルX線撮影装置を導入している病院や、巡回診療の様子、ボランティアさんのインタビューをご覧ください。

👉 詳しくはこちら <https://youtu.be/TcLEouuy-E4>

▶▶ スーダンに救急車を届ける！ 冬の古本寄付キャンペーン

不要な本やDVDを「つなぐ書店」さんにお送りいただくと、その査定額が全額ロシナンテスへの寄付金になる、という取り組みです。スーダンに救急車を届けるため、不要な本やDVDをぜひご寄付ください。



【キャンペーン期間】2025年12月1日～2026年1月31日

※期間中にお送りくださった方（先着60名様）に、
アフリカ布で作った三角しおりをプレゼント！



👉 詳しくはこちら <https://www.rocinantes.org/blog/7048/>

06 事務局からのお知らせ

事務局だより

いつもロシナンテスの活動をあたたかく見守っていただき、心より感謝申し上げます。

私たちの本部事務所は福岡県北九州市にあり、いただいたご寄付の管理や領収書の発行、ご支援者さまからのお問い合わせへの対応など、日々の業務に取り組んでいます。

現在の場所に移ってから約10年が経ちましたが、昨年、より働きやすく安心できる環境を整えるため、事務所のレイアウトを見直しました。新型コロナでの経験もふまえて、各デスクにパーティションを設置し、周囲との距離感に配慮しながら、集中できる空間づくりを心がけています。

最初は新しい配置に少し戸惑うこともありましたが、今では落ち着いた雰囲気の中で、気持ちよく業務に向き合えるようになりました。

これからも、みなさまのご支援に感謝の気持ちを忘れず、一つひとつの業務に丁寧に取り組んでまいります。今後とも変わらぬご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

